

地域の民俗芸能を取り入れた表現運動の教材開発
—伝統的な動きを基に自由な表現への発展を意図した授業実践—

茅野 理子・木下 友絵

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第5号 別刷

2018年8月3日

地域の民俗芸能を取り入れた表現運動の教材開発[†]

—伝統的な動きを基に自由な表現への発展を意図した授業実践—

茅野 理子*・木下 友絵**
宇都宮大学教育学部*
小山市立城南小学校**

本研究の目的は、栃木県の民俗芸能である獅子舞と八木節を題材として、伝統的な動きを活かしながら、自由な表現への発展を意図した表現運動の教材を開発することである。獅子舞の低く踏みしめるような足取りや腰の動き、八木節の軽快な足さばきや手さばきは日本民踊の特徴的かつ基本的な動きであり、この動きをしっかりと身につけた上で、動きの工夫に対する指導支援をする授業実践を通して、学生は自由で創造的な表現を楽しむことができ、学習の継続への意欲を示した。この結果を踏まえて、小学生を対象とした単元計画、指導案を練り直し、また、動きの見本や自由な表現の展開例をDVDに録画し、映像資料としたことにより、指導に自信がないと回答した教員に実践における有効な指導資料を提供することができた。

キーワード：表現運動、民俗芸能、自由な表現、創造的な取り組み、教材開発

1. 研究の背景

平成10年(2002)改訂の小学校学習指導要領において、低学年の「模倣の運動」が「表現リズム遊び」になり、簡単なフォークダンスを含めて指導できるようになった。また、「表現運動」の内容は、中学年は「表現」と「リズムダンス」、高学年は「表現」「フォークダンス」で構成され、それぞれ、フォークダンス、リズムダンスを加えて指導することができることと示された。加えて、高学年の「フォークダンス」は日本の民踊を含むとされ、松尾(2004)は、改訂のポイントの一つとして位置づけられた日本の民踊は、「地域に伝承された民踊を取り上げて踊る」ようにし、「日本各地の代表的な民踊に取り組む場合は、特徴の異なった踊りを味わえるようにする」^{注1)}ことが求められていると述べている。

「日本の民踊」が学習指導要領の改訂でクローズアップされた理由については、単に踊って楽しむだけでなく、自分が生まれ育った土地や国について改

めて実感するという、日本の伝統文化を見直して郷土に愛着と誇りを抱くことが大きな理由としてあげられる。

しかし、その伝承について、本田(1992)は、地域に根ざしたダンス教育を目指し、「急速な社会の変革は芸能や祭りの変容を余儀なくし、従来の伝承方法をそのまま踏襲するだけでは、伝承があやぶまれている事例が多いと聞いている。伝統芸能の継承という意味からも、新しい伝承方法への取り組みや芸能を土台とした新しい交流の場の創造の試みが必要とされているのではないだろうか」(p.209)と提言している。また、東京国立文化財研究所(1999)によると、伝承と創造の関係について、新しい時代の子どものリズムにあった日本の芸能が作り上げられているという実態があり、それが芸能の宿命であり、特性であるというまとめを報告している。

一方、学校現場では、表現運動をどう教えたらよいか分からないと思っている教員も多くいる。酒向・平田・猪崎(2017)の小学校教員のダンスに対するジェンダー・イメージ、抵抗感と羞恥心についての調査では、ダンスを指導することへの抵抗感がある教員が「どちらかといえば抵抗がある」「抵抗がある」を合わせると、全体の55%が抵抗感を抱いていることが分かったと述べている。また、八嶋・茅野(2004)

[†] Masako CHINO*, Tomoe KINOSHITA**:
Development of Teaching Materials of
Japanese Folk Dance

* School of Education, Utsunomiya University

** Jonan Elementary School

(連絡先: chinom@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

の栃木県の体育授業での表現運動の実践についての調査では、90%の教員が運動会での実践と回答し、そのうち授業と併用した実践は57%と回答（複数回答）していること、この結果は全国的にも同様の傾向がみられると述べている。つまり、小学校の表現運動の学習を、運動会でのダンスの練習時間に充ててしまっているという現状が少なからず窺えるということである。

また、その運動会では、流行りのよさこいソーラン節や沖縄民踊エイサーを披露したり、既成のダンスをそのまま振り写して教えたりする、「振り付け習得型学習」ととどまっている例も見受けられる。振り付け習得型のダンスでは、表現運動のねらいから大きく外れてしまっていると言われている。

そこで、本研究では、

- ①栃木県に伝わる民俗芸能^{注2)}について調べ、その中から児童が取り組みやすく、かつ、指導しやすい題材を探究する。
- ②表現運動や民踊についての教員の意識調査及び分析をすることで、民踊に期待すること、指導上の課題について明らかにする。
- ③以上を踏まえて指導計画、指導案を作成し、授業実践を行うことで開発した教材の有効性について検証する。

これらを通して、栃木県の民俗芸能を題材とした教材開発を行い、今後の現場に資する授業実践資料としてまとめることを研究の目的とする。

2. 研究方法

(1) 実態調査

栃木県の民俗芸能の取り組み（八木節・獅子舞など）について、文献や民俗資料館などから資料を収集し、その基礎的知識や基本の動きを押さえる。

(2) 現職教員へのアンケート調査

教師の民俗芸能についての意識調査と授業の実態について以下の要領でアンケート調査を行う。

- ①対象者 宇都宮大学後期内地留学・教職大学院に在籍の小学校教員19名
- ②調査期間 平成29年11月27日～12月8日
- ③調査内容 教員の表現運動に関する意識調査、授業の実態、民踊の普及方法など

(3) 授業実践

民俗芸能を題材とした表現の単元計画案と指導案を作成（八木節と獅子舞）し、授業実践を行う。

①対象者 宇都宮大学教育学部「ダンスA」受講生（男子10名、女子7名）

②指導者 筆者（TK）

③実施日 平成29年12月20日・27日（水）

(4) 学生へのアンケート調査

授業前後に以下の要領でアンケート調査を行う。

①実施日 授業前：12月20日指導前

授業後：12月27日指導後

②対象者 前記、授業対象者

③調査内容

（前）属性、日本の民踊に対しての意識など

（後）八木節・獅子舞を踊ってみたいの感想、今後でも学習したい栃木県の民踊など

3. 結果及び考察

(1) 本研究で題材とした民俗芸能（資料1・2）

栃木県には、神楽、稲作に関わる芸能、風流、盆踊りなどたくさんの民俗芸能が残されている。

その中で、本研究では、栃木県県北に多く踊られている獅子舞、足利や佐野の方面で踊られている八木節を題材として教材化することにした。

八木節は他の教科とも関連しやすく、軽快な曲にあわせて踊る、軽快な足さばきや手さばきに特徴がある踊りで、教員や子どもたちにも親しみやすいと思われる。一方、獅子舞は、体全体で、低く踏みしめるような足取りや腰の動きに特徴のある踊りである。両者とも、その特徴としての動きに日本の民踊の基本的な動きを含むとともに、特徴の異なった踊りであることから教材化に適していると考えた。ただし、獅子舞はゆっくりとした曲調のため、今の子どもたちにとってリズムをとりにくいのではないかと懸念される面がある。

(2) 民俗芸能及び表現運動の授業に対する教員の意識

1) 学習指導要領上の民踊に関する理解度

学習指導要領の高学年で、フォークダンスの中に日本の民踊が位置づけられていることを知っている教員は37%であり、あまりよく知らない・知らないと答えた教員が63%であった。高学年を担当したことのない教員は理解不足になる傾向がみられた。

2) 指導してみたい栃木県の民踊

どんな栃木県の民踊なら指導してみたいかに対しては、指導する自信がないと答えた教員が46%と多く、自分が今まで指導したことがなく、民踊についてよく理解していない中で児童に教えることに不安

がある教員が多いことが分かった。

現場の教員が取り入れやすい民踊は、八木節・五段囃子が5割強と最も高く、また、次いで獅子舞が25%であった。

3) 表現運動の授業の実態

表現運動の授業実践については、運動会の練習のために表現運動の時数を当てている教員が95%と多く、逆に表現運動の授業を行っていると感じた教員は5%であり、授業として取り組みがなされていない実態が窺われた。

日頃困難に思っていることについては、授業が運動会の為の練習に振り替えられている(31%)が最も多い。また、民踊を指導したことがない、何をどんなふうにかいたらよいか分からない、即興のダンス(表現運動)が指導しにくいとの回答をあわせると57%と多く、表現運動の指導に難しさを感じていることが分かった。

4) 授業実践に有効な資料等

表現運動の表現(創作ダンス)やフォークダンスについて、教材CDやDVD、1時間の指導計画があるとよいと58%の教員が答えている。体育の専門でない教員が指導する時に、視覚的にも分かりやすいDVDがあると、教員もイメージしやすく、児童に正確に伝えることができ、また、ある一定基準の指導が可能になると言える。

次に、市町村ごとに教材開発されたものがあるとよいと答えた教員が27%であった。市町村ごとの教材開発については、地域に根付いている民踊を共同で学習ができること、地域に残っている民踊を次世代に残していくことができる利点がある。

以上のことを勘案して、指導原案を作成した。

(3) 学生を対象とした授業実践

90分の授業(小学校での2時間分)を2回行った。

教材化に当たっては伝統的な動きを活かしながら、自由な表現への発展を意図することに留意した。

八木節では、軽快な足さばき(資料1:写真②, ③)や手さばき(同:⑪, ⑫)を、また、獅子舞は、全体で、低く踏みしめるような足取り(資料2:写真⑤)や構え(同:⑫)を基本的な動きとした。

自由な表現へ発展させるために、回る動きや前後左右への動きなど、いくつかの組み合わせ例などを示し、そこから自分なりの表現ができるようにグループ活動をさせた。

1回目の授業では八木節・獅子舞の中で、自分が

踊りたい民踊を選択させ、それぞれ筆者が簡易な踊りに作り替えた踊りの振りを指導した。誰もが踊れるように、八木節は、笠回しと足さばきを単純な動きに変え、獅子舞は、低く踏みしめるような足取りや腰を落とした動きを取り入れた繰り返しの多い踊りにした。

そして、踊りのイメージをつかんだ後、各3人のグループになり、32呼間の踊りを自由に表現して発表した。

2回目の授業では、前回練習した基本の振りと自由に表現した踊りを思い出して練習し、他の班と教え合って64呼間の踊りを創り上げた。

しかし、1回目の授業の時に、八木節は、筆者が簡易な踊りに作り替えた振りが、学生にとっては難しかったようで、なかなか覚えられないという課題が残った。そこで、2回目の授業では八木節の足さばきや笠回しをより簡単な動きに変えて指導した(資料1, 2)。すると、スムーズに覚えられたことにより、八木節のイメージがしやすくなり、次々と自由な表現の動きをする学生が増えた。

(4) 授業前後の民踊に対する学生の意識

民踊について今までどう思っていたかを授業前に調査したところ、踊ってみたい・興味があると答えた学生は、41%であった。その一方で、あまり踊りたくない・踊りたくないと感じた学生は24%、どちらでもないと感じた学生が23%、合わせて47%と割合が高かった。その他では、「意識したことがなかった踊り」、「踊りを知らなかった」などという意見もあった。民踊に対してよく理解しておらず、興味関心がなかったということが言える。

授業後の調査では、88%の学生がこれからも機会があれば踊ってみたい・興味が出てきたと回答し、踊る前の状態から約2倍に増加した。一方、踊りたくない・あまり踊りたくないと感じた学生は24%から0%に減少した。また、どちらでもないと感じた学生も23%から6%に減少した(図1)。

それぞれの踊りについての感想では、「八木節は、軽快なリズムで動きやすいが、笠回しやリズムの取り方が難しい」という指摘があった。「獅子舞は、踊りは分かりやすく、踊りやすいが、曲のリズムがつかみにくいで、踊りがそろいにくい」とのことだった。また、獅子舞は自由な動きがしやすい、八木節はイメージしやすいと答えており、この2つの民踊は自由な表現へ発展しやすい踊りだと言える。

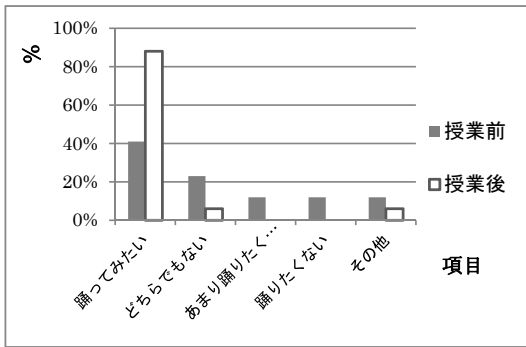


図1. 授業前後の民踊への意識

これらを踏まえて、小学校用の最終指導案を作成した（体育科指導案1, 2及び資料1, 2）。また、基本の動きやそれを基にした自由な表現例についてDVDに収めて映像資料とした。

4. まとめ

本研究では、栃木県の民俗芸能の中から、八木節と獅子舞を題材として、伝統的な動きを活かしながら、自由な表現への発展を意図して教材化した。

授業実践に当たっては、基本の動きを取り入れながら、八木節、獅子舞を誰もが踊れる簡単な動きにするとともに繰り返しの多い踊りに工夫した。

その結果、学生の意識が大きく向上したと同時に踊りの特徴を捉え、その題材にあった自由な表現で踊ることもでき、教材に対しての有効性が図れたことで、民踊の伝承と創造の両面が活かされた授業展開が可能になる教材開発の提案をすることができた。

また、実践を踏まえて、教員が要望している指導計画、指導案、DVDを作成したことで、小学校の現場で活用できる教材として資することが期待される。

今後の課題は、①小学校での授業実践を継続し、よりよい教材を作成していくこと、②誰もができる指導案に改善することで、民踊の普及発展を図ることである。

注1) 平成20年『小学校学習指導要領解説体育編』では、「日本各地域の民踊とフォークダンスで構成され、伝承された踊りを身に付けてみんなで一緒に踊る（略）、特定の踊り方を再現して踊る定形の学習が進められるのが特徴」(p.19)と記されている。
注2) 民俗芸能とは、民俗行事のなかに伝承された民間の芸能のことで、郷土芸能などともいうとされている。民踊はこの一部である。

主要参考文献

- 岡田和雄・松宮文子・村上紀子（1988）絵でみる表現・民舞指導のポイント. あゆみ出版
- 尾島利雄（1980）栃木の祭りと芸能. 栃の葉書房.
- 梶田叡一監・中村哲編著（2009）学校を活性化する伝統・文化の教育. 学事出版株式会社.
- 進藤貴美子（1992）「大地の芸能をもとめて－土のいのちの響鳴」の舞台をつくる. 松田岩男総監・松本千代栄監編：ダンスの教育学第6巻. 徳間書店：224-227.
- 鈴木裕美子（1992）創作の導入としてのダンス・ウォームアップ－日本の踊りを取り入れて－. 福島大学教育学部論集 教育・心理部門52：1-9.
- 台 一雄（1984）八木節その源流を探る. 岩下書店.
- 高橋るみ子・岩田 靖・佐々木昌代他（1999）郷土芸能を題材とした表現・創作ダンスの学習. 宮崎大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要6：127-155.
- 東京国立文化財研究所芸能部編（1999）第二回東京国立文化財研究所民俗芸能研究協議会プログラム－学校教育と民俗芸能－.
- 中村哲編（2009）伝統や文化に関する教育の充実－その方策と実践事例－. 教育開発研究所.
- 本田郁子（1992）地域に根ざしたダンス教育をめざして. 松田岩男総監・松本千代栄監編：ダンスの教育学第6巻. 徳間書店：208-209.
- 松尾千秋（2004）学校体育における民俗舞踊の取り扱いに関する研究（2）－舞踊ビデオ視聴によるイメージを中心に－. 広島大学大学院教育学研究科紀要第二部53：319-325.
- 村瀬幸治（1975）体育の授業 日本の踊り. 民衆社. インターネット検索
- 民舞（みんぶ）ってなあに？ <http://www.minbugaruda.net/minbu.htm>
- ししまい <http://jpncculture.net/shishimai>
- 獅子舞日本文化いろは辞典 http://iroha-japan.net/iroha/C03_show/07_shishimai.html
- （以上、いずれも平成29年10月30日取得）
- 資料
- 日光市歴史民俗資料館企画制作（2013）平成24年度 日光市民俗芸能・技術映像記録 野門の獅子舞、関白流下小林獅子舞、東小来川の獅子舞、日向の獅子舞.

体育科指導案1

1 単元名 日本の民踊 (1 / 4 ~ 2 / 4)

2 本時のねらい

- ・音楽に合わせて、栃木県の民踊の手足の動きや腰の動き、小道具を操作する動きを捉えて踊ることができる[技能]
- ・栃木県で親しまれている踊りを楽しんで踊ることができる[関心・意欲・態度]

3 展開

| | 学習活動 | 時間 | 指導上の留意点・支援 | 準備等 |
|------------------------------------|---|----|---|------------------------|
| 導入 | 1 学習への見通しをもつ ・栃木の民踊（獅子舞・八木節）の由来について知るとともに、VTRで踊り方や感じをつかむ | 10 | ・本時の学習の流れを示して見通しをもたせる ・八木節・獅子舞の由来について伝え、興味をもたせる | 学習予定表 模造紙 |
| | 2 本時のめあてを確認する | 10 | | |
| 展開 | 音楽に合わせて、栃木県の民踊の特徴的な動きで踊ることができる | | | CD ラジカセ 電子黒板 |
| | ・本時のめあてを知る ・踊りの流れを知る ・曲に合わせて練習する | 25 | ・栃木の民踊の由来を知って、踊り継がれている背景を考えさせる ・一連の動きを覚えさせる | |
| | 3 曲のリズムに合わせて踊る ・3人グループになり、曲に合わせて練習する | | ・同じグループの友達と動きの確認をし、繰り返し練習する ・電子黒板を用意し、獅子舞・八木節の踊り方がいつでも確認できるようにしておく | |
| 栃木県の民踊の特徴的な動きを活かし、自由な表現へ発展することができる | | | | |
| まとめ | 4 動きの特徴を捉え、動きを作る ・3人組になり、8×4の32呼間の動きを考える | 30 | ・獅子舞の踊りから特徴的な踊りをイメージし、動きを考えさせ、動きのもつ独特の動きに親しませる | |
| | 5 簡単な小作品として、見せ合いをする | 10 | ・腰を落とした構えのポーズ ・高低の動き | |
| | 6 学習のまとめをする | 5 | ・本時の振り返りをし、次時の学習内容を知らせる | |

4 評価

- ・音楽に合わせて、栃木県の民踊の特徴的なステップや動きで踊ることができたか。[技能]
- ・栃木県で親しまれている踊りを楽しんで踊ることができたか[関心・意欲・態度]



体育科指導案2

1 単元名 日本の民踊 (3 / 4 ~ 4 / 4)

2 本時のねらい

- ・音楽に合わせて、軽快な足さばきや手ぶりの動き・低く踏みしめる足取りや腰の動きをもとに、自分を表現しながら踊ることができる〔技能〕
- ・栃木県の民踊の特徴的な動きを活かし、自由に表現することができる〔思考・判断〕

3 展開













| | 学習活動 | 時間 | 指導上の留意点・支援 | 準備等 |
|-----|--|----|---|-------------------------|
| 導入 | 1 学習への見通しをもつ ・栃木の民踊（獅子舞・八木節）の踊り方や特徴的な動きを確認する | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の流れを示して見通しをもたせる ・八木節・獅子舞の特徴的な動きを確認させる | 学習予定表 CD ラジカセ |
| | 2 本時のめあてを確認する | 10 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 八木節：軽快な足さばきや手ぶりの動き 獅子舞：低く踏みしめる足取りや腰の動き </div> | |
| 展開 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 音楽に合わせて、栃木県の民踊の特徴的な動きで踊ることができる 栃木県の民踊の特徴的な動きを活かして、自由に工夫しながら踊ることができる </div> | | | 電子黒板 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・一連の動きや前回創作した動きを確認し、曲に合わせて踊る ・3人組になり、曲に合わせて練習する | 25 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じ班の友達と一連の動きを確認し、前回創作した動きを練習させる ・電子黒板を用意し、八木節・獅子舞の踊り方がいつでも確認できるようにしておく | |
| まとめ | 3 作った動きを組み合わせてひとまとまりの動きを組み合わせる ・6人組になり、8×4の32拍間の動きを組み合わせる | 30 | <ul style="list-style-type: none"> ・互いに作った動きを組み合わせて、動きのもつ独特の動きに親しませる ・八木節や獅子舞の踊りの意味を理解し、班の友達と心を一つにして踊ることができるようにさせる | 反省カード |
| | 4 簡単な小作品として、見せ合いをする | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表をみて、助言や賞賛をする | |
| | 5 学習のまとめをする | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをし、次時の学習内容を知らせる | |

4 評価













- ・音楽に合わせて、軽快な足さばきや手ぶりの動き・低く踏みしめる足取りや腰の動きをもとに、自分の思いを表現しながら踊ることができたか〔技能〕
- ・栃木県の民踊の特徴的な動きを活かし、自由に表現することができたか〔思考・判断〕



資料1. 獅子舞（基本の動き）抜粋

| | 踊り方の順序 | | | 踊り方 |
|---|---|---|---|---|
| 1 |  |  |  | 太鼓を手のひらで、左右左と3回叩く（2回繰り返す）。 |
| 2 |  |  |  | 手を胸の前でクロスさせてから、左手を斜め前に出し、右手は斜め後ろに出す。足は、左足を前に出し、曲げている右足を戻し、太鼓を両手で叩く（写真③）。同様に反対方向で行う（クロス→右手を斜め前、左手は斜め後ろ、右足前、左足曲げる）。 |
| 3 |  |  |  | 右側から八の字に回る（右回り3呼間、左回り3呼間）。正面を向いたら左足を前に一歩出し、上半身を前に倒し、太鼓を小刻みに叩く。 |
| 4 |  |  |  | 太鼓を両手で叩いてから、両手を上げる。両手を広げながら、左足を後ろに引き、両足を曲げる。 |

資料2. 八木節（基本の動き）抜粋

| | 踊り方の順序 | | | 踊り方 |
|---|---|---|---|--|
| 1 |  |  |  | 左足で地面を蹴り、足を前に出すと同時に、笠も左足の前に出す。 |
| 2 |  |  |  | 同じく、右足で地面を蹴り、足を前に出すと同時に笠も右足の前に出す。そして両足をそろえて、笠を膝の前で一度叩き、両手を上に伸ばし、笠も真上に挙げる。 |
| 3 |  |  |  | 左手を上に伸ばし、右手で傘を1回たたく。右手首を押し出すように、45度に出す。 |
| 4 |  |  |  | 両手で笠をもち、頭の上をなぞってから右横に笠を出す(笠の内側を見せる)。同様に反対方向で行う(笠で頭をなぞってから、左横に笠を出す。笠の内側を見せる)。 |

* 本稿は、平成29年度宇都宮大学教育学部後期内地留学報告書「郷土芸能を題材とした表現運動の教材開発～伝承を通して自己表現できる児童の育成を目指して～」を敷衍したものである。

平成30年3月30日 受理

Development of Teaching Materials of Japanese Folk Dance

Masako CHINO, Tomoe KINOSHITA